

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/004629

International filing date: 16 March 2005 (16.03.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-077710
Filing date: 18 March 2004 (18.03.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 28 April 2005 (28.04.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 4 年 3 月 1 8 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 4 - 0 7 7 7 1 0

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号
J P 2 0 0 4 - 0 7 7 7 1 0
The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

出 願 人
Applicant(s): 株式会社コーセー

2 0 0 5 年 4 月 1 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願
【整理番号】 0310024
【提出日】 平成16年 3月18日
【あて先】 特許庁長官 殿
【発明者】
 【住所又は居所】 埼玉県狭山市富士見2-20-1 株式会社コーセー 生産・物
 流本部内
 【氏名】 栗原 充
【特許出願人】
 【識別番号】 000145862
 【氏名又は名称】 株式会社コーセー
【代理人】
 【識別番号】 100086324
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 小野 信夫
【選任した代理人】
 【識別番号】 100125748
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 高橋 徳明
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 007375
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 要約書 1
 【物件名】 図面 1
 【包括委任状番号】 9710906
 【包括委任状番号】 0300939

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

容器体と、先端に塗布体が設けられた軸体を有する蓋体とよりなる塗布体付き容器において、前記容器体口部にしごき部を、前記蓋体の軸部に環状突起を設け、更に前記軸体の環状突起の上と下に、軸体内を通じ空気を流通可能とする微小な空気流通孔を設けてなることを特徴とする塗布体付き容器。

【請求項 2】

環状突起が、蓋体を完全閉じたときに前記しごき部と密接するものである請求項第 1 項記載の塗布体付き容器。

【請求項 3】

前記軸体の環状突起の下が逆テーパ状にくびれていることを特徴とする請求項第 1 項または第 2 項記載の塗布体付き容器。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 塗布体付き容器

【技術分野】

【０００１】

本発明は、塗布体付き容器に関し、更に詳細には、マスカラ等のある程度の粘性の化粧料について、塗布体に余分に付着した化粧料を落とすためのしごき部を有しながら、圧力変化による内容物や汚れ物の噴出を防ぐことのできる塗布体付き容器に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来から、マスカラ、液状アイライナー、ベースト状口紅、マニキュア等のメイクアップ用化粧組成物は、睫毛、目周辺、口唇、爪等に付着させる必要があるため、ある程度の高粘性を有するものが多い。そして、これらの化粧料は、組成物が入った筒状の容器と、塗布体を有する蓋部から構成されることが多いが、組成物の粘性が高く、塗布体に余分に付着することが多いため、容器の開口部近くに、しごき部を設け、余分の組成物を拭き落とすようにすることが多かった。

【０００３】

しかしながら、このようにしごき部を設けると、容器内部と外部との間での空気の流通が妨げられ、特に塗布体の挿入に伴う圧力変化により、しごき部に付着した組成物が汚れとなって容器の口元に噴出するという問題があった。

【０００４】

このような問題に対しては、しごき部の形状や材質の工夫、塗布体を取り付ける筆軸の形状の工夫、しごき部と筆軸の間隔調整等で対応しているが、使用しやすさと汚れ噴出の解消の両方を満足させることは困難であった。

【０００５】

上記の問題を解消する手段の一つとして、しごき部（払拭部材）の両側に通気のための微小孔を設けることも行われている（例えば、特許文献１参照）。

【０００６】

しかし、しごき部の中心から外れた部分に微小孔を開けることは、作業的に難しく、煩雑な工程が必要になり実用性に欠けるという問題があった。

【０００７】

また、筆軸を中空として、ここから空気を流通させて容器内外の圧力差をなくすことも試みられている（例えば、特許文献２参照）。

【０００８】

この特許文献２の粘性液用容器は、筆軸を中空状として長い空気流通路を設けたものであり、ここから組成物が漏出することを前提に、蓋内にこれを吸着する多孔質体が設けられているものであった。しかし、蓋の中に多孔質体を設けることは構造的に煩雑となると共に、最終的には、多孔質体が組成物で詰まり、空気流通路の意味がなくなるおそれもあるものである。

【０００９】

【特許文献１】 特開平９－２３８７４１号

【特許文献２】 実公昭６０－３３８６８号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【００１０】

従って、簡単な構造でありながら、しごき部に付着した汚れが容器の口元に噴出するという問題を解決することのできる塗布体付き容器の開発が求められていた。

【課題を解決するための手段】

【００１１】

本発明者は、上記課題を解決すべく、特に特許文献２に示すような筆軸を中空状として空気流通路を設ける容器について検討を行った。そしてその結果、この容器が蓋の中に多

孔質体を設けなければならない理由は、長すぎる空気流通路を有するため、容器の内外の圧力差が大きくなならないことに気づいた。すなわち、蓋を開けるときは容器内の圧力が低下し、一旦空気流通路に流れ込んだ組成物を容器中に引き戻す力が働くはずであるが、あまり圧力差がない場合には完全には容器中に戻らない。そして、再度組成物が空気流通路に流れ込むと、残存した組成物は順次空気流通路を移動することになり、最終的には多孔質体に吸収させることが必要となるのである。

【0012】

本発明者は、この知見に基づき、容器の蓋を開けるときに確実に空気流通路から組成物を容器中に引き戻す機構を研究し、本発明を完成した。

【0013】

すなわち本発明は、容器体と、先端に塗布体が設けられた軸体を有する蓋体とよりなる塗布体付き容器において、前記容器体口部にしごき部を、前記蓋体の軸部に環状突起を設け、更に前記軸体の環状突起の上と下に、軸体内を通じ空気を流通可能とする微小な空気流通孔を設けてなることを特徴とする塗布体付き容器である。

【発明の効果】

【0014】

本発明の塗布体付き容器1によれば、化粧組成物が容器の口元に噴出するという問題を解消することができるので、高粘性の化粧料を充填する容器として安心して使用することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

以下、本発明の塗布体付き容器の一態様を示す図面と共に本発明を更に詳しく説明する。

【0016】

図1は、本発明の塗布体付き容器（円柱状）の、蓋を閉めたときの状態を示す一部切り欠き図であり、図2は蓋を開けるときの状態を示す一部切り欠き図、図3は、蓋を閉めるときの状態を示す一部切り欠き図である。また図4は、蓋体に取り付けられる取り付け部と軸体を示す図面である。図中、1は塗布体付き容器、2は容器体、3は蓋体、4は軸、5は塗布体、6はしごき部、7は環状突起、8は空気流通孔、9は空気流通部、10は取り付け部を示し、Aは化粧料組成物を示す。

【0017】

本発明の塗布体付き容器1の容器体2は、細い円筒状であり、その上部の開口部近くの内側（口部）には、しごき部6が設けられている。また、容器体2の開口部は、シールにより、気密が維持される。

【0018】

一方、塗布体付き容器1の蓋は、蓋体3と、取り付け部10を介してこれに取り付けられた軸体4よりなり、軸体4の先端には塗布体5（図ではブラシを模式的に描いている）が設けられている。また、軸体4の手元側は、中空になっており、空気流通部9を形成する。更に、この手元側には、環状突起7が設けられ、この上および下に前記空気流通部9とつながる空気流通孔8aおよび8bが開けられている。この空気流通孔8aおよび8bの間隔はなるべく短いことが好ましく、例えば、1～3cm程度、特に0.5～1cmが望ましい。

【0019】

上記環状突起7の下面は、蓋体を完全閉じたときに上記しごき部6の上面と密接するものとして、容器体2内を気密に保ち不要な化粧組成物Aの残存を防ぐことが好ましい。

【0020】

本発明の塗布体付き容器1は、使用しないときは、図1に示すように、容器体2の開口部のシールにより気密が保たれているが、これを開けると図2に示すように蓋体3が上昇する。そして、この上昇に伴い、軸体4も上昇する結果、容器体2内は減圧状態となる。そして、この状態では、軸体4としごき部6の間は密接しているので、空気は環状突起7

の上の空気流通孔 8 b から空気流通部 9 を通り、環状突起 7 の下の空気流通孔 8 a から容器体 2 内部に流れ込む。この際、空気流通部 9 内に化粧組成物 A が漏出している場合は、これも空気と一緒に容器体 2 内に戻る。

【0021】

一方、使用後に蓋を閉める場合は、図 3 に示すように、塗布体 5 から軸体 4 が容器体 2 内に挿入されていくが、これにより容器体 2 内の圧力は高まる。そして、高まった圧力は、密封寸前にしごき部 6 の下に位置する空気流通孔 8 a から空気流通部 9 および空気流通孔 8 b を通り抜けてゆく。前記したように、漏出する化粧組成物 A が空気流通部 9 にもあったとしても、これは蓋体を開けた時に容器体内に戻っているため、化粧組成物 A が空気流通孔 8 b から空気と共に吹き出すことはない。

【0022】

本発明の塗布体付き容器 1 は、(i) 空気流通部 9 とこれにつながる空気流通孔 8 a、8 b の存在と、(ii) この空気流通孔 8 a が環状突起 7 の下に、空気流通孔 8 b が環状突起 7 の上にあるという位置の点に特徴があるものであり、それ以外は、通常の塗布体付き容器と同様で良い。

【0023】

例えば、塗布体 5 としては、図に示したような形状のブラシに限定されるものではなく、球状ないしは楕円球状のポリウレタン等の塗布体等、内容物を塗布できるものであれば良い。また、容器体 2 としても、円柱のみならず、四角柱等の多角柱であっても良く、材質も、透明ないし半透明のガラス、プラスチック等であっても良く、金属等の不透明なものであっても良い。更に、しごき部 6 も、図に示すような、開口部のシールと一体化した部材で形成されたものに限らず、容器と一体化して形成されたものであっても、また、リング状部材を挿入したものであっても良い。

【0024】

本発明の塗布体付き容器 1 は、粘性のある種々の溶液の容器として使用できるが、特に高粘性の化粧料、例えば、マスカラ、液状アイライナー、ペースト状口紅、マニキュア等のメイクアップ化粧料として有利に利用することができる。

【0025】

本発明は、短い距離の空気流通部を設けることにより、しごき部に付着した組成物が汚れとなって容器の口元に噴出するという問題を解消したものである。すなわち、蓋体の開閉により、容器内と外部との間で圧力差が生じるが、同じ体積変化であっても短い空気流通部を設けているために、ここでの圧力変化は相対的に大きくなり、保存中に漏出した化粧組成物を確実に容器内に戻す圧力を得ることができるのである。

【0026】

また、このように容器内外の圧力差を解消する流路（空気流通孔 8 a－空気流通部 9－空気流通孔 8 b）を持っているために、軸部および拭い落とし部の隙間から化粧組成物が噴出することはない。

【0027】

これに対し、空気流通部が長い場合は、一定の体積変化に対する圧力変化が小さいため、保存中に漏出した化粧組成物を完全に戻すことは困難であり、これに対する何らかの対応が必要となる。

【図面の簡単な説明】

【0028】

【図 1】 本発明の塗布体付き容器の、蓋を閉めた状態を示す一部切り欠き図。

【図 2】 本発明の塗布体付き容器の、蓋を開けるときの状態を示す一部切り欠き図。

【図 3】 本発明の塗布体付き容器の、蓋を閉めるときの状態を示す一部切り欠き図。

【図 4】 蓋体に取り付けられる取り付け部と軸体を示す図面。

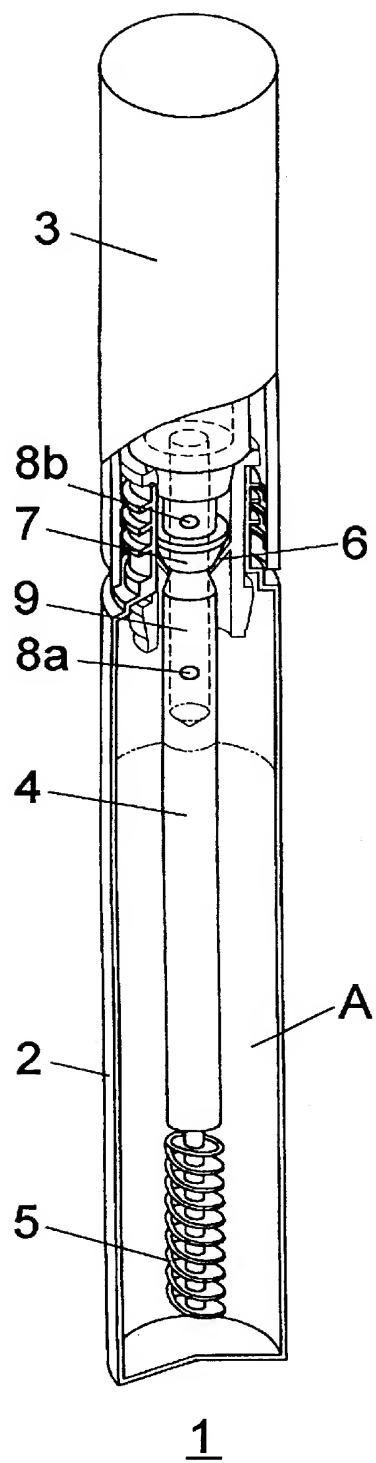
【符号の説明】

【0029】

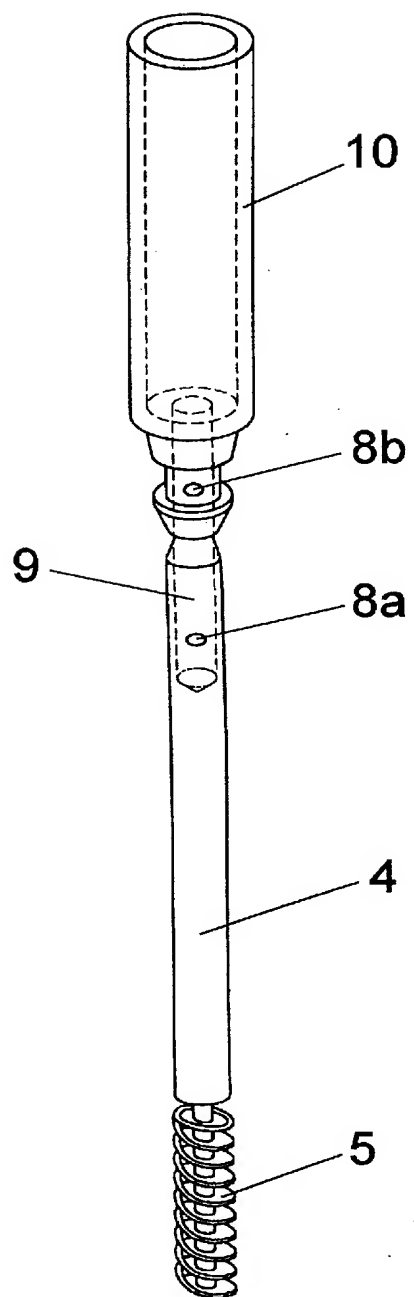
1 …… 塗布体付き容器

	2	…	…	容器体
	3	…	…	蓋体
	4	…	…	軸体
	5	…	…	塗布体
	6	…	…	しごき部
	7	…	…	環状突起
	8	…	…	空気流通孔
	9	…	…	空気流通部
1	0	…	…	取り付け部
	A	…	…	化粧料組成物

以 上



【 図 4 】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 簡単な構造でありながら、しごき部に付着した汚れが容器の口元に噴出するという問題を解決することのできる塗布体付き容器を提供すること。

【解決手段】 容器体と、先端に塗布体が設けられた軸体を有する蓋体とよりなる塗布体付き容器において、前記容器体口部にしごき部を、前記蓋体の軸部に環状突起を設け、更に前記軸体の環状突起の上と下に、軸体内を通じ空気を流通可能とする微小な空気流通孔を設けてなることを特徴とする塗布体付き容器。

【選択図】 図 2

出願人履歴

0 0 0 1 4 5 8 6 2

19910823

名称変更

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

株式会社コーセー